

コロナ禍、感染者が急増、第3波で過去最多を更新。GoToを勧め「静かなマスク会食」の呼びかけ。否、「自助」でなく「公助」の検査体制拡充が先ではないか。

11月11日のゼミは、岸本聡子「地域自治で、グローバル資本主義を包囲する」(『世界』2020年11月号)を川口さんの報告で行いました。イギリスの医療関係者のコロナ禍での死亡原因は民営化にあり、PPE調達のジャストインタイム方式が無責任体制で命と安全を脅かした。住民が意思決定に参加できる新しい公的所有では、スペインの先駆的モデル、水道以外のドイツの風力発電、コムズ連携を説く。水道などの民営化に対し、公共財としてコミュニティズム：再公営化運動を展開する。ここから地方と国際主義を結び、脱成長の戦略をライフメイキングシステム・公的所有の民主化、生活・労働の自律的管理に求め、ポストコロナ社会において、社会的連帯経済では労働者協同組合と消費者協同組合が、生命維持も含む社会的再生産が重要である、と提起している。討論では、脱民営化・再公営化の指摘は日本にとっても重要な示唆になる。日本では自治体の官僚主義的な公営が民営化されている。イギリスの保育所の問題ではフレディみかこが民営化について重要な問題提起をしている。需要供給により価格が上下するが、上下しないものとしての公共がある。欧州では、中央集権ではなく地方の重要性が指摘され、エネルギーを市民の手で作っていることにも通じる。また、竹内さんからデミン『なぜ中間層は没落したのか』の紹介があり、中間層没落を二重経済のモデル：FTE部門(金融・技術・エレクトロニクス)と低賃金部門で説明しているが、部門間の移動を高等教育に求め、教育を受ければ皆がFTE部門で働けるのか、と疑問を提示した。出席は、小野さん、川口さん、斎藤さん、竹内さん、初参加の北川清子さん・山口淑さんと高田の7名でした。

* 11月25日のゼミは、資本論3巻35章の第1節のみ行います。

* 働き方ASU-NETでは、連続講座「コロナ禍と未来を考える」を全3回・Web開催で行います。第1回は、12月16日(水)夜です。詳しくは、働き方ASU-NETのHP <https://hatarakikata.net/13288/> をご覧ください。参加には事前の申し込み(先着100名)が必要です。

***** ゼミ日程 *****

- 11月25日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻35章 貴金属と為替相場 1節 報告服部さん
- 12月9日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第1章・第2章 報告小野さん
- 12月23日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻35章 貴金属と為替相場 2節 報告者未定
- 1月13日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第3章・第4章 報告者未定
- その後 2021/1/27, 2/10, 2/24, 3/10, 3/24 (アイクルの部屋)